

平成22年2月

田村隆行 学位論文審査要旨

主 査 池 口 正 英
副主査 井 藤 久 雄
同 領 家 和 男

主論文

Minichromosome maintenance-7 and geminin are reliable prognostic markers in patients with oral squamous cell carcinoma: Immunohistochemical study

(ミニクロモソームメンテナンス7とジェミニンは口腔扁平上皮癌患者の信頼できる予後マーカーである：免疫組織学的研究)

(著者：田村隆行、庄盛浩平、春木朋広、野坂加苗、濱本佑樹、塩見達志、領家和男、井藤久雄)

平成22年 Journal of Oral Pathology and Medicine 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はヒト口腔扁平上皮癌の生検標本を用いてMCM7、GemininおよびKi67の発現を免疫組織化学的に解析し、MCM7、Geminin発現と臨床病理学的因子や予後との関連について検討したものである。その結果、MCM7は組織学的分化度において、低分化であるほど陽性細胞標識率が有意に高値を示し、予後に関してMCM7高陽性細胞標識率群はⅢ、Ⅳ期症例で有意に予後不良を示し、Geminin高陽性細胞標識率群はⅣ期症例において有意に予後良好であったことが判明した。本論文の内容は、癌研究の分野で、MCM7、Gemininの発現は口腔扁平上皮癌の予後予測に寄与する可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。